

2024（令和6）年度

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	1493600454	事業の開始年月日	令和1年10月1日
		指定年月日	令和1年10月1日
法人名	株式会社ソラスト		
事業所名	グループホームソラストいずみ		
所在地	(245-0022) 神奈川県横浜市泉区和泉が丘1-16-3		
サービス種別 定員等	■ 認知症対応型共同生活介護	定員計 18名 ユニット数 2 ユニット	
自己評価作成日	令和7年1月14日	評価結果 市町村受理日	令和7年4月28日

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先 <http://www.rakuraku.or.jp/kaigonavi/>

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

◇スタッフの育成◇
社内オンライン研修システムにより、介護の幅広いコンテンツの中から自分が学びたいものを選んで、すきま時間を利用して学べる。
キャリアパス面談では今後のキャリアをじっくりと話しながら考えていく事ができる。特に女性のワークライフバランスを考えた働き方を介護の仕事の中で考えていく事ができる。
認知症の方へのアプローチをひとりで悩むことなく、多角的に様々な視点からチームで考える機会を多くしている。

◇地域資源の活用◇
地域で活動されているボランティアの方や高齢者へ向けて何かできないかと考えている若い世代の方に表現の場を提供している。

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	株式会社フィールズ		
所在地	251-0024 神奈川県藤沢市鶴沼橋1-2-7 藤沢トーセイビル3階		
訪問調査日	令和7年2月14日	評価機関 評価決定日	令和7年3月31日

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点（評価機関記入）】

事業所は、横浜市営地下鉄「立場」駅から徒歩約15分、または「湘南台」行きバスの利用で「大丸」バス停からほど近い住宅地にあります。事業所に隣接する広大な芝生敷の広場があり、地域住民が日常的にゲートボールやサッカーなど、多目的な活動で利用しています。

<優れている点>
地域住民との交流や入居者の意欲やADLの維持・向上に注力しています。入居者が直接関われる取組として、隣接する広場で入居者による販促活動ができる「野菜販売所」の設置に現在取り組んでいます。この活動を通して入居者の意欲、オーナー栽培の野菜販売、地域住民の新鮮野菜購入など、需要と供給のバランスから交流の輪も広がり、認知症の理解や事業所の地域貢献として進めていきたいとしています。事業所の土地オーナーがこの広場の所有者でもあり、オーナーの賛同と協力を得て、広場の使用と野菜の提供の承諾を得ています。広場は、日常的に多くの地域住民が利用し、隣接する事業所は、利用者への手洗い場の提供を行っていますが、実際の交流までにはつながらない現状だとしています。現在は、実現に向けて野菜収穫時期の調整について取り組んでいます。次年度に向けて早期実現が期待される取組みです。

<工夫点>
毎月、一人ひとりの「生活状況のお知らせ」として書面だけを送付していましたが、定期的実施する運営推進会議の資料に、事業所での様子を写真にして一枚ずつコメントをつけ、議事録として家族に送付しています。家族からは、本人の表情から今の様子や事業所の現状が把握できると好評を得ています。

【地域密着型サービスの外部評価項目の構成】

評価項目の領域	自己評価項目	外部評価項目
I 理念に基づく運営	1～14	1～10
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	15～22	11
III その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	23～35	12～16
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	36～55	17～23
V アウトカム項目	56～68	

事業所名	グループホームソラストいずみ
ユニット名	1階

V アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	<input type="radio"/>	1, ほぼ全ての利用者の 2, 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	<input type="radio"/>	1, 毎日ある 2, 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	<input type="radio"/>	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目：36, 37)	<input type="radio"/>	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)	<input type="radio"/>	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	<input type="radio"/>	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目：28)	<input type="radio"/>	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない

63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)	<input type="radio"/>	1, ほぼ全ての家族と 2, 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	<input type="radio"/>	1, ほぼ毎日のように 2, 数日に1回程度ある 3. たまに 4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	<input type="radio"/>	1, 大いに増えている 2, 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
66	職員は、生き生きと働いている。 (参考項目：11, 12)	<input type="radio"/>	1, ほぼ全ての職員が 2, 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	<input type="radio"/>	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	<input type="radio"/>	1, ほぼ全ての家族等が 2, 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどいない

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている。	事業所理念は事務所内に掲示し、職員全員が常に意識できるようにしている。	事業所理念は、毎年、職員全員でそれぞれが最も大切にしたい支援を出し合い、年度の目標として作成しています。今年度は「安心、安全を第一に考え、心と心を繋ぐケア」を事業所理念として掲げています。皆で考えた理念は、同じ思いを持ちながら一つのチームとして日々の介護支援につなげています。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している。	職員出退勤時やレク活動などで外出した際は、近隣の方々に笑顔で挨拶している。特に、事業所敷地隣の広場で催し物がある場合もトイレの貸し出しなど、挨拶だけでなく会話をして交流している。	入居者自身が地域と交流できる取組として、事業所の土地オーナーの所有する広大な広場で野菜の販売所として入居者が販促活動に関われる計画を進めています。この取組により、入居者、オーナー栽培の野菜、地域住民の利用とすべての交流の輪につなげたいとしています。現在、収穫時期の調整を行っています。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている。	地域包括支援センター（地域ケアプラザ）が主になっている「ふくしる」（福祉を知ってもらう）活動に参加している。	/	/
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	対面開催を継続しており、ご家族様や後見人様も参加していただいている。以前実施していた生活状況を報告する書面を文字だけのものから画像入りに変更したところ、ご家族様より新たな意見もあり、次回以降の報告書に取り入れることができた。	運営推進会議は、事業所の現状や新たな情報などの説明や家族の意見・提案など双方で意見交換を行っています。書面による議事録は欠席家族にも送りますが、今年度より、入居者の普段の様子や行事の写真に一人ひとりにコメントをつけて送っています。家族からは、日常の暮らしぶりや事業所全体の様子がわかり、安心できると好評を得ています。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる。	それぞれの担当者は変更になることが多く、面会もほとんどないため、協力関係はまだ築けていない。	泉区福祉課との連携はありますが、特に他の行政関係との積極的な連携は、まだ、構築できていない現状だとしています。今後は、市の高齢者グループホーム連絡会や他の福祉関連に参加し、情報や協働できる取組みなどを行っていきたいとしています。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が、身体的拘束等の対象となる具体的な行為を正しく理解するとともに、身体的拘束等の適正化のための指針の整備、定期的な委員会の開催及び従業者への研修を実施し、緊急やむを得ない場合を除き、身体的拘束等をしないケアに取り組んでいる。	身体拘束等の対象となる具体的な行為を正しく理解するために、委員会や研修を実施している。毎月のカンファレンスでは、実施するケアの中に拘束にあたる行為がないか全員で確認をしている。	身体拘束委員会を3ヶ月に1回開催し、毎月のカンファレンス会議では、具体的な身体拘束の事例などを挙げ、「身体拘束をしない理由」について学びを深めています。委員会の欠席者には、議事録で周知し、確認のサイン、及び、職員全員にレポートの提出や「虫食いテスト」を行い、職員自身の支援の振り返りと理解の徹底を重ねています。	
7	6	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。	上期と下期に虐待事例検討会を行い、職員自ら虐待に至る気持ちを考えるようにしている。虐待の芽である不適切なケアを見逃さないようにするためのカメラチェックや職員同士の話し合いの時間を多くとって防止に努めている。	虐待防止委員会、虐待事例検討会ではアンガーマネージメントや高齢者虐待研修で理解を深めています。毎月のカンファレンス会議では、何気ない支援の中に不適切な行為やスピーチロックにあたる言葉かけについて一つひとつの支援が支援者側の目線ではなく、入居者目線で取り組まれているか確認と振り返りを重ね、職員全員で注意を喚起しています。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。	成年後見制度は、ご利用されているご入居者様のことで、職員も少しずつ学び、理解を深めている。ご家族様より問い合わせがあれば、都度対応している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	契約時は読み合わせに加え、丁寧に説明し、不安を解消していただけるよう努めている。		
10	7	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	各所に相談窓口を設置している。ご入居者様やご家族様からの意見や要望は、電話や書面でやり取りする際に聞き取り、職員にも共有している。反対に職員からの声もお伝えしている。	メール、電話、訪問時など、個々の家族に合わせたコミュニケーションの方法でタイムリーに意見や要望を聞くようにしています。また、今までは毎月送付していた一人ひとりの生活状況の報告を取りやめ、事業所での全体の様子にコメントをつけた写真で報告し、連絡の必要な時は、その都度行う方法に替えています。家族からは事業所での本人の様子がわかると好評を得ています。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	8	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	職員からの生の声を聞けるよう、形式ばった面談以外の時間を大事にしている。必要物品をそろえたり、働く環境を整えている。	日頃から職員の意見や提案は、柔軟に聞き入れています。毎月行うカンファレンス会議には、事前に職員から議題を挙げてもらい、当日の会議では、議題を基に効率よく、深く、意見交換ができています。最近では、みそ汁を1日の水分量に含むか否かの議題から水分としてカウントしないことに決めるなど、支援の一つひとつについて皆で話し合っています。	
12	9	○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	管理者の個別面談に加え、本社より「働きやすい職場環境を目指して」施策の全職員ヒヤリングを年1回実施している。	定期的実施する事業所面談と法人による全職員のヒヤリングでは、キャリアパス面談、コンプライアンス関連について面談が行われます。職員がどのように働きたいか、職員自身の意向や要望を聞き取り、皆が向上心を持って働ける就労環境に努めています。	
13	10	○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	社内のオンライン研修（テラススタジオ）を活用している。社外の研修は、シフト調整で働きながら受けられるようにしている。	内部研修・外部研修の他に法人による「e-ラーニング」では、基本的・専門的な知識をいつでも、どこでも、何度でも学べる自己研鑽の場として提供しています。また、新人育成プログラムとしてメンター制度の導入や定型業務の見直しとして新人から見た疑問や提案も採り入れています。	
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている。	地域の施設連絡会で同業者と交流する機会があり、職員も巻き込んだネットワークづくりを始めている。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。	ご入居の前に生活歴や要望など情報収集はするが、勝手な思い込みでご本人を見ることなく、少しずつ探りながら安心していただけるような関係づくりをしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている。	ご家族様の不安や見えていないものなどをしっかり聞き取り、事業所の方針やできること出来ないことなどを丁寧に説明するようにしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	ご本人様やご家族様から要望を伺うが、それ以外でも支援が必要だと事業所内で意見があった場合は提案している。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。	ADLを考慮しつつも、生活リハビリ（家事）を中心に「やってもらえますか？」「おう、やるよ」という気軽な声をかけあっている。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている。	ご家族様による外食や外泊の機会も増えており、外出時のご様子などをご家族様に共有していただいている。		
20	11	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	今現在、面会に制限を設けていないため、当日の問い合わせであっても対応している。	限られた家族との共有はできていますが、殆どの入居者家族との交流が薄いため、本人の生活歴、馴染みなどの把握が十分ではありません。事業所では、過去に拘らずこの事業所からのスタートだと考え、今の本人の様子や状態から一つひとつ把握し、本人の思いに寄り添う支援に努めています。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。	ご入居者様一人ひとり性格が異なるため反発する場面も見られるが、すぐに職員が気づいて間に入り、大きな争いに発展しないよう、どちらに対しても落ち着くような言葉がけをしている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている。	転居や退去されても、先方から連絡をいただくことがある。		
III その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	12	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	聞き取りができないご入居者様に関しては、非言語部分の様子をよく観察し、支援方法はカンファレンスでしっかり話し合っ決めていきます。	入居者に興味を持ち、「この人はどんな人だったんだろう」とその人を知ることが大切に、訴えが少ない人ほど、関係構築が出来ていないのではと考えています。表出困難で把握が難しい場合には、他の職員はどんな声掛けをしているのかなどを話し合い、アプローチの方法を変更しています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	ご入居前の情報収集以外に、ご入居されてからのご本人様やご家族様との関係性の中で知る情報を大事にして、職員同士で共有している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。	介護記録（タブレット）や業務日誌へ各職員が小さなことでも気づいたことを記録、共有して、現状を把握している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	13	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。	ケアマネージャー、計画作成担当者が中心となり、月1回のカンファレンスで意見を出し合っている。	カンファレンスの中で一人ひとりの課題やサービス内容を話し合いアプローチ方法を考えています。前回の支援内容を振り返り、目標やニーズの変更をしています。継続しているサービス内容は青字で記入し、新しく追加したものは黒字にし、周知しやすくしています。行った支援はタブレットでチェックする仕組みがあり、シフト体制の中でも分かりやすく確認できるようになっています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	タブレットや業務日誌、申し送りノートを活用して情報を共有し、カンファレンス時に必要に応じて支援方法の見直しを行っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。	従来の誕生日会から個別で企画し実施している。ラーメンが食べたいというご入居者様に誕生日レクとしてご家族に提案し、外出レク（誕生日会）を実施。記録はのちにご家族にも見ていただき面白い企画をありがとうございました。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。	回覧板や自治会などで情報を集めている。地域ボランティアの協力で楽器演奏に合わせてご入居者様に歌っていただける機会をつくる。		
30	14	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	協力医療機関と連携し、適切な医療を受けられるようにしている。	訪問看護師が訪問医の担当看護師と兼務し、何でも相談できることができています。訪問看護の日に気付いた利用者の変化を訪問医来訪時に伝えるなど連携を取っています。今後は誤薬防止についての話し合いを強化していく予定です。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。	訪問看護師への状況報告は訪問の二日前に行っており、個々の対応や相談も密にしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時に事業所の受け入れ体制の説明、カンファレンスへの参加をお伝えし、入院が長引きそうな場合は、現状の把握と退院に向けて働きかける。		
33	15	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。	ご本人様のADLの変化時には、ご家族様や医療も交えて話し合いを行うようにしている。	看取りの同意書を取り交わした場合でも、心の変化を重視し、急変時には家族の意向を再確認しています。今後は職員が慌てない、分かりやすいフローの作成を検討中です。話好きな人には沢山話しかける、音楽が好きなお人には好きな音楽をかけるなど、一人ひとり、その人に合わせた看取りケアを大事にしています。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	社内研修の受講や事故発生時の振り返り（効果測定）協議の際にも、急な対応に慌てないよう手順確認やシュミレーションをこまめに行っている。		
35	16	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。	災害時の避難について、研修や実践で職員同士はイメージできているが、実際の避難には、地域の協力なくしてはできないため、協力体制の構築は大きな課題となっている。	災害対策は地域の協力を仰ぐことが不可欠と、地域交流を始めています。玄関の電子施錠は、災害時にライフラインが止まってしまった場合に開けることができるのか、などの話し合いもしています。今後さらなる協議が期待されます。	防災備蓄倉庫の整理や、備蓄品の確保、職員への周知が期待されます。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	17	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	研修等で各自意識するようにはしているが、実際は本人よりも周りが気づくことが多いため、カンファレンス時に「それはきつく聞こえる」「この言葉は変えた方がよい」など、職員同士声を掛け合う機会をつくっている。	入浴中は脱衣所に施錠し、介助者以外の職員も入室できないようにプライバシーを確保しています。更衣、排泄、入浴などデリケートな介助を行う時は、必ず動作の前の声掛けや、ドアを閉めて介助することを徹底しています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている。	職員がご入居者様と個別に話せる機会（個別レクや趣味の喫煙時など）を多くし、希望や思いを話しやすい環境をつくっている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	一人ひとりのペースを大切にし、休みたいのか、話したいのか、テレビを見たいのか、求めているものを察知するようにしている。ご本人様に尋ねる場合もある。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。	朝は、ホットタオルで顔を拭いていただいたり、介助の必要な方には一緒に鏡を見ながら整容し、オシャレについての話をします。		
40	18	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている。	高齢者施設では難しいパン食も、希望されるご入居者様が多いので注意しながらも積極的に取り入れている。	週に2回朝食にパン食を取り入れ、入居者がジャムやバターを塗りやすいように小皿に分けるなどの工夫もしています。定期的に近隣の生活介護事業所のパンを利用者がメニューから選び購入しています。誕生日には利用者が食べたいものを提供し、職員と一緒に餃子を作り、ノンアルコールビールでお祝いするなど、個別支援にも注力しています。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	排便が滞っているご入居者様には水分を多めに、元々水分摂取の苦手な方にはゼリー等、たまに違ったものをお出しするなど食事や水分量に注意しながら工夫している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている。	毎食後に必ず実施している。最後の仕上げ磨きも必要に応じて実施している。		
43	19	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。	新たにリハビリパンツや尿とりパッドを使用する際には必ずお試し期間を設け、ご本人の行動や言動を詳細に記録し、ご本人様にとって一番いい支援方法を話し合っ決めていく。	排泄介助時は、入居者が恐怖心や混乱を避けるために動作の前の声掛けを心掛けています。入居者の残存能力を活かし、「手すりはここですよ」など、できることは自身で行う声かけをしています。現在使用しているおむつは本当に必要か、などをカンファレンスで検証しています。業者の説明を聞く機会を設け、職員全体で知識を深めています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる。	記録を確認し、体操への参加を促している。コーヒー、紅茶のカフェイン類や乳酸菌、牛乳などの乳製品の提供で、できるだけ自然排便になるよう工夫している。		
45	20	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に応じた入浴の支援をしている。	入浴への声掛けを工夫し、拒否があった場合も入浴日変更など迅速に対応している。	湯船に浸かってもらえる事を基本にしています。一人介助が難しく注意が必要な場面に浴室内のコールで職員の補助を頼み、2人介助で行っています。脱衣所に「入居者様の整容チェック」を掲示し、手が汚れていませんか、爪が伸びていませんか、穴のあいた服ではないですか、など確認ができるようにしています。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している。	枕カバーや寝具は清潔に保ち、居室から退室する際には環境整備を意識するようにしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	服薬ミスが多発したことにより、服薬介助の手技を大幅に変更する。まずは正しく服薬介助ができるよう努めている。薬についての意識や知識を少しずつ深めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている。	簡単な家事作業を自分の仕事と思って引き受けていただいている。パンが好きな方が多いので、定期的に近隣の障がい者施設よりパンを購入している。		
49	21	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。	日々のお散歩は、施設隣りの広場を利用している。ご家族様との外食や外泊は制限なく実施している。職員の人員に調整ができれば、自立、車椅子問わず、少し遠出している。	毎日散歩の日課を取り入れています。建物オーナーの所有している隣接の広大な広場を散歩しています。散歩表を活用し、散歩の頻度の偏りをなくす工夫しているユニットも有ります。帰宅願望がある人の気分転換になるように支援しています。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	実際の金銭を使用することはない。必要な物品はご家族様に確認後、立替購入を行っている。買い物に行く機会は設けている。		

自己評価	外部評価	項目	外部評価	
			自己評価	実施状況
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	ご入居者様やご家族様より希望があれば、やり取りができるよう支援している。電話の取次ぎも行っている。	
52	22	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	共有スペースに不要なものは置かないなどの配慮をしている。誰でも見られる掲示物は、季節のもの、お誕生日の写真など生活感を大切にしている。	外の景色が見れる窓際の一人用のイスの設置や、テレビ前に設置したソファ、食卓から離れた場所に設置したソファなど、好みに合わせて気分転換できる工夫をしています。フロア中央部に設置した死角防止ミラーで視認性を確保し、転倒などのリスク回避の工夫をしています。エントランスに「今月の行事」を掲示し、家族に開催する行事をお便りだけでなく、事前に伝える工夫もしています。
53		○共用空間における一人ひとりの居場所 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	共有スペースが広いので、畳敷きスペースやテレビ前など、自由に動いていただけるようになっている。エントランスも縁台があり、自由に座ることができる。	
54	23	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	居室にはご家族様が用意されたお孫様との写真、カレンダー、家具や食器も使い慣れたものをお持ちいただいている。	転倒回避のための見守りセンサーを使用し、安全に居室で過ごしてもらえる工夫をしています。転倒リスクが無くなったと判断した時には取り外しています。居室担当者が入居者の興味があるものや、好きなものを発見し、居室の飾り物に提案するなどの工夫もしています。
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	各ユニットフロアには、全体的に手すりを設置しており、安全に自由に動くことができる。	

事業所名	グループホームソラストいずみ
ユニット名	2階

V アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	<input type="radio"/>	1, ほぼ全ての利用者の 2, 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	<input type="radio"/>	1, 毎日ある 2, 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	<input type="radio"/>	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目：36, 37)	<input type="radio"/>	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)	<input type="radio"/>	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	<input type="radio"/>	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目：28)	<input type="radio"/>	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない

63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)	<input type="radio"/>	1, ほぼ全ての家族と 2, 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	<input type="radio"/>	1, ほぼ毎日のように 2, 数日に1回程度ある 3. たまに 4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	<input type="radio"/>	1, 大いに増えている 2, 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
66	職員は、生き生きと働いている。 (参考項目：11, 12)	<input type="radio"/>	1, ほぼ全ての職員が 2, 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	<input type="radio"/>	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	<input type="radio"/>	1, ほぼ全ての家族等が 2, 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどいない

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている。	事業所理念は事務所内に掲示し、職員全員が常に意識できるようにしている。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している。	職員出退勤時やレク活動などで外出した際は、近隣の方々に笑顔で挨拶している。特に、事業所敷地隣の広場で催し物がある場合もトイレの貸し出しなど、挨拶だけでなく会話をして交流している。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている。	地域包括支援センター（地域ケアプラザ）が主になっている「ふくしる」（福祉を知ってもらう）活動に参加している。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	対面開催を継続しており、ご家族様や後見人様も参加していただいている。以前実施していた生活状況を報告する書面を文字だけのものから画像入りに変更したところ、ご家族様より新たな意見もあり、次回以降の報告書に取り入れることができた。		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる。	それぞれの担当者は変更になることが多く、面会もほとんどないため、協力関係はまだ築けていない。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が、身体的拘束等の対象となる具体的な行為を正しく理解するとともに、身体的拘束等の適正化のための指針の整備、定期的な委員会の開催及び従業者への研修を実施し、緊急やむを得ない場合を除き、身体的拘束等をしないケアに取り組んでいる。	身体拘束等の対象となる具体的な行為を正しく理解するために、委員会や研修を実施している。毎月のカンファレンスでは、実施するケアの中に拘束にあたる行為がないか全員で確認をしている。		
7	6	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。	上期と下期に虐待事例検討会を行い、職員自ら虐待に至る気持ちを考えるようにしている。虐待の芽である不適切なケアを見逃さないようにするためのカメラチェックや職員同士の話し合いの時間を多くとって防止に努めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。	成年後見制度は、ご利用されているご入居者様のことで、職員も少しずつ学び、理解を深めている。ご家族様より問い合わせがあれば、都度対応している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	契約時は読み合わせに加え、丁寧に説明し、不安を解消していただけるよう努めている。		
10	7	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	各所に相談窓口を設置している。ご入居者様やご家族様からの意見や要望は、電話や書面でやり取りする際に聞き取り、職員にも共有している。反対に職員からの声もお伝えしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	8	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	職員からの生の声を聞けるよう、形式ばった面談以外の時間を大事にしている。必要物品をそろえたり、働く環境を整えている。		
12	9	○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	管理者の個別面談に加え、本社より「働きやすい職場環境を目指して」施策の全職員ヒヤリングを年1回実施している。		
13	10	○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	社内のオンライン研修（テラススタジオ）を活用している。社外の研修は、シフト調整で働きながら受けられるようにしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている。	地域の施設連絡会で同業者と交流する機会があり、職員も巻き込んだネットワークづくりを始めている。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。	ご入居の前に生活歴や要望など情報収集はするが、勝手な思い込みでご本人を見ることなく、少しずつ探りながら安心していただけるような関係づくりをしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている。	ご家族様の不安や見えていないものなどをしっかり聞き取り、事業所の方針やできること出来ないことなどを丁寧に説明するようにしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	ご本人様やご家族様から要望を伺うが、それ以外でも支援が必要だと事業所内で意見があった場合は提案している。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。	ADLを考慮しつつも、生活リハビリ（家事）を中心に「やってもらえますか？」「おう、やるよ」という気軽な声をかけあっている。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている。	ご家族様による外食や外泊の機会も増えており、外出時のご様子などをご家族様に共有していただいている。		
20	11	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないう、支援に努めている。	今現在、面会に制限を設けていないため、当日の問い合わせであっても対応している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。	ご入居者様一人ひとり性格が異なるため反発する場面も見られるが、すぐに職員が気づいて間に入り、大きな争いに発展しないよう、どちらに対しても落ち着くような言葉がけをしている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている。	転居や退去されても、先方から連絡をいただくことがある。		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	12	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	聞き取りができないご入居者様に関しては、非言語部分の様子をよく観察し、支援方法はカンファレンスでしっかり話し合っ決めていきます。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	ご入居前の情報収集以外に、ご入居されてからのご本人様やご家族様との関係性の中で知る情報を大事にして、職員同士で共有している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。	介護記録（タブレット）や業務日誌へ各職員が小さなことでも気づいたことを記録、共有して、現状を把握している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	13	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。	ケアマネージャー、計画作成担当者が中心となり、月1回のカンファレンスで意見を出し合っている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	タブレットや業務日誌、申し送りノートを活用して情報を共有し、カンファレンス時に必要に応じて支援方法の見直しを行っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。	従来の誕生日会から個別で企画し実施している。ラーメンが食べたいというご入居者様に誕生日レクとしてご家族に提案し、外出レク（誕生日会）を実施。記録はのちにご家族にも見ていただき面白い企画をありがとうと喜んでいただけた。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。	回覧板や自治会などで情報を集めている。地域ボランティアの協力で楽器演奏に合わせてご入居者様に歌っていただけの機会をつくる。		
30	14	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	協力医療機関と連携し、適切な医療を受けられるようにしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。	訪問看護師への状況報告は訪問の二日前に行っており、個々の対応や相談も密にしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時に事業所の受け入れ体制の説明、カンファレンスへの参加をお伝えし、入院が長引きそうな場合は、現状の把握と退院に向けて働きかける。		
33	15	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。	ご本人様のADLの変化時には、ご家族様や医療も交えて話し合いを行うようにしている。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	社内研修の受講や事故発生時の振り返り（効果測定）協議の際にも、急な対応に慌てないよう手順確認やシュミレーションをこまめに行っている。		
35	16	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。	災害時の避難について、研修や実践で職員同士はイメージできているが、実際の避難には、地域の協力なくしてはできないため、協力体制の構築は大きな課題となっている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	17	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	研修等で各自意識するようにはしているが、実際は本人よりも周りが気づくことが多いため、カンファレンス時に「それはきつく聞こえる」「この言葉は変えた方がよい」など、職員同士声を掛け合う機会をつくっている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている。	職員がご入居者様と個別に話せる機会（個別レクや趣味の喫煙時など）を多くし、希望や思いを話しやすい環境をつくっている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	一人ひとりのペースを大切にし、休みたいのか、話したいのか、テレビを見たいのか、求めているものを察知するようにしている。ご本人様に尋ねる場合もある。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。	朝は、ホットタオルで顔を拭いていただいたり、介助の必要な方には一緒に鏡を見ながら整容し、オシャレについての話をします。		
40	18	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている。	高齢者施設では難しいパン食も、希望されるご入居者様が多いので注意しながらも積極的に取り入れている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	排便が滞っているご入居者様には水分を多めに、元々水分摂取の苦手な方にはゼリー等、たまに違ったものをお出しするなど食事や水分量に注意しながら工夫している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている。	毎食後に必ず実施している。最後の仕上げ磨きも必要に応じて実施している。		
43	19	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。	新たにリハビリパンツや尿とりパッドを使用する際には必ずお試し期間を設け、ご本人の行動や言動を詳細に記録し、ご本人様にとって一番いい支援方法を話し合っ決めていく。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる。	記録を確認し、体操への参加を促している。コーヒー、紅茶のカフェイン類や乳酸菌、牛乳などの乳製品の提供で、できるだけ自然排便になるよう工夫している。		
45	20	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている。	入浴への声掛けを工夫し、拒否があった場合も入浴日変更など迅速に対応している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している。	枕カバーや寝具は清潔に保ち、居室から退室する際には環境整備を意識するようにしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	服薬ミスが多発したことにより、服薬介助の手技を大幅に変更する。まずは正しく服薬介助ができるよう努めている。薬についての意識や知識を少しずつ深めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている。	簡単な家事作業を自分の仕事と思って引き受けていただいている。パンがお好きな方が多いので、定期的に近隣の障がい者施設よりパンを購入している。		
49	21	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。	日々のお散歩は、施設隣の広場を利用している。ご家族様との外食や外泊は制限なく実施している。職員の人員に調整ができれば、自立、車椅子問わず、少し遠出している。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	実際の金銭を使用することはない。必要な物品はご家族様に確認後、立替購入を行っている。買い物に行く機会は設けている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	ご入居者様やご家族様より希望があれば、やり取りができるよう支援している。電話の取次ぎも行っている。		
52	22	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	共有スペースに不要なものは置かないなどの配慮をしている。誰でも見られる掲示物は、季節のもの、お誕生日の写真など生活感を大切にしている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	共有スペースが広いので、畳敷きスペースやテレビ前など、自由に動いていただけるようになっている。エントランスも縁台があり、自由に座ることができる。		
54	23	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	居室にはご家族様が用意されたお孫様との写真、カレンダー、家具や食器も使い慣れたものをお持ちいただいている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	各ユニットフロアには、全体的に手すりを設置しており、安全に自由に動くことができる。		

2024年度

事業所名 ソラストいずみ

作成日： 2025 年 4 月 23 日

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	35	備蓄倉庫に何があるのか、いくつあるのか、賞味期限など、倉庫が開かずの間になっている。	備蓄品の整理、倉庫内の整理整頓	5月から社員が増えるので、片付けの日をシフトに組み込む。	2ヶ月
2	17	申し送りやカンファレンスなどの場面で、ついご入居者様のお名前を口に出してしまう。部屋番号呼びがいいわけではないが、プライバシーの配慮に欠ける。	排泄などネガティブな話題の時は、名前を出さず、職員同士は番号で呼ぶなど、誰が聞いていても不快にさせないようにする。	カンファレンスで周知し、全員が意識して呼ぶようにする。部屋番号を覚える。新入社員にも教育していく。	3ヶ月
3		地域との繋がりを持つ。オーナー様との関係を築く。	季節ごとにオーナー様栽培の新鮮野菜を施設前で販売する。	収穫情報を聞く。チラシやのぼりの作成。シフト調整。	1 2ヶ月
4	28	ご入居者様個別のレクリエーションをスタートさせた。企画、運営がまだ未熟である。全員（スタッフ、ご入居者様共に）が行えていない。	ご入居者様全員が、叶えたいことを実現する。（個別レクリエーション）	各居室担当者が、ご入居者様とコミュニケーションを取り、叶えたいことをリサーチし、企画、運営する。周りはサポートする。	1 2ヶ月
5	14	同業者との交流が少ない。施設の連絡会には出席しているが、同業者同士のやり取りはほとんどない。	同じ高齢者グループホームと合同で催しをする。交流を持つ。	施設連絡会で面識のある管理者に連絡する。催しの提案をする。お互いの運営推進会議に出席する。	1 2ヶ月